

✈️ 海外生活 だより

パリ事務所

フランス人のお国自慢 ～山の男海へ行く～

(財)自治体国際化協会パリ事務所所長補佐
林 秀和 (岐阜県高山市派遣)

フランス人のお国自慢

「フランスへ来たら魚釣りにおいて
私が彼女からよく掛けられた言葉です。

彼女の名前はエリザベット・ル=トレソレールさん、フランス西部ブルターニュ半島の西端に位置し、神奈川県横須賀市と姉妹都市提携をしているブレストを中心としたブレスト都市圏共同体において、昨年度まで文化活性化部長を務めていました。

彼女は、2010年、クレアが実施する海外自治体幹部交流協力セミナーに参加し、日本の地方自治制度を学び、瀬戸内の「海」をテーマとした香川県の芸術文化資源を活かした地域振興政策に触れ、海に面する自らの街と香川県の取り組みを比較するとともに、多くの日本人と触れ合い、日本の文化、日本人の心に大変感激したフランス自治体幹部の一人です。

そんな彼女が、日本滞在中によく話していたのが、郷土の美しい海と魚釣りの話。

「私の住んでいる町は海がとてもきれいで、住んでいる人は優しくて、そこでとれる魚はフランスで一番おいしい。私も夫と一緒に船に乗ってよく魚釣りをするから、Hideにもぜひ来てほしい」と、いつも満面の笑顔でお話になりました。

それは、おそらく私が初めて触れたであろうフランス人の「お国自慢」だったと思われます。

私がこちらに赴任して強く感じることの一つとして、フランス人は、どんなに町の面積が小さくとも、どんなに人口が少なくとも、必ず何か自分が住む町の特徴を見つけ出し、「うちの町がフランスで一番」だと言ってお国自慢を始めます。つ

まり自らの郷土を、地域をこよなく愛しているのです。

今回の訪問も、そんなお国自慢を確かめてみたいという気持ちから実現したものです。

ペローズ・ギレックを訪問

彼女が住んでいるのは、パリから西に約500km、英仏海峡に面したペローズ・ギレックという人口7,000人ほどの町です。

町に列車は通っ



ペローズ・ギレック位置図

ていないため、車 または10kmほど離れたラニオンという隣町からバスで行かなければなりません、そこは青い海と白い砂浜が広がるだけでなく、グラニット・ローズ (Granit Rose) と呼ばれるピンク色の花崗岩が露出しており、夕日を浴びて真っ赤に染まる海岸線とともに、とても美しい景色を有する町です。それゆえに、100年以上も前から海水浴場として知られ、ヨーロッパ中から観光客が訪れるらしく、



美しい海岸線

私たちが訪れた週末も、多くの方が観光船に乗り込んでいました。

この町の男の子は、4～5歳くらいか

ら船に乗るための学校に通うことが多く、中学生ごろになると1人で船に乗るそうです。ル＝トレソレール家においても、夫のミシェルさん、2人の息子さんいずれも小さなころから海とともに育ち、各人が船を所有するという、まさに船乗り一家。バカンス時の2か月程度だけではなく、1年ほど休暇を取得して世界一周に出掛けたという息子さんたちの話を聞き、仕事に対してメリハリをつけるフランス人らしいと思いつつ、岐阜県の山間部で育った私にとって、それは大変興味深いものでした。

そして、いよいよ船乗り一家の長であるミシェルさんの船に乗り、お誘いを受けた目的である魚釣りへ。

沖合に浮かぶいくつもの島々の説明を受けつつ釣り糸を垂れる。まぶしい太陽と美しい海、しなる釣竿と



ル＝トレソレール夫妻と釣り上げられたスズキ釣り上げられる魚たち、彼女が僕を強く誘う意味がとてもよくわかりました。

その数時間後、釣り上げられた魚がテーブルの上に乗っていたのは言うまでもありません。

地域のアイデンティティー

さらに、いろいろと会話をする中で気付くことが1点ありました。

それは、私がフランス語で会話をしている中で、何度か発音を言い直されることがあったのですが、これは私のフランス語の発音が悪いというのではなく、この地域の言葉「ブルトン語」に言い直しているのです。

フランスは、多民族国家ゆえに、国をまとめる一つ的手段としてフランス語という共通の言語を用いています。もちろん彼女たちも通常はフランス語を利用しているのですが、民族のアイデンティティーの一つである言語を守り後世に伝える

意識が非常に強く、町にはブルトン語を学ぶ学校があると同時に、道路標識などの看板もフランス語とブル



2言語の標識（下段がブルトン語）

トン語の2言語表記が認められています。

そして食卓を囲む度に、彼女が言うフランスで一番おいしい魚を食べながら、この地域が、そしてこの地域から世界に繰り出していった人々がいかに素晴らしいか、ル＝トレソレール家の皆さんが繰り広げるお国自慢、大きな笑い声と話し声にあふれた大変楽しいものでした。

フランス人から学ぶこと

今回の訪問は、たった2日間の滞在でしたが、大変楽しい時間を過ごさせていただくとともに強く感じたのは、郷土への想いとおもてなしの心でした。

私が住む飛騨高山という町は、国内外を問わず多くの方に訪れていただいております。観光誘客も私の業務の一つです。業務を行う際、いつも効果的な方法を模索しているのですが、今回の訪問で最も効果的な手段の一つが明確になりました。

それは、まずは郷土をこよなく愛し、遠慮なく自慢すること。「遠慮」は、時に奥ゆかしい日本文化の一つとして素晴らしいものであると思いますが、彼女たちを見て、フランス人に触れて思うことは、どんなに素晴らしい地域であっても口に出さなければ伝わらないということです。

そして、伝えたからにはその責任は果たす、いかにその町が素晴らしいかを全力で伝える、それがおもてなしというものであるということです。

近い将来、フランスの海の人々が日本の山間にある町を訪れる際には、フランス人に負けないうらいのお国自慢とおもてなしで迎えたいと思います。